

層雲峡ビジターセンター



〔大雪展望台より上川町市街地と表大雪・北大雪を望む・5/5〕

上川町 ～分村独立 100 周年～

今年、上川町はその前身である上川村が愛別村より分村、独立して100年を迎えました。

1923年(大正12年)に愛別～上川間の鉄道が開通して地域がさらに発展したことで、1924年(大正13年)1月、愛別村からの分村が実現しました。当時、今の市街地の地域は「留辺志部(ルベシベ)」と呼ばれていたのですが、北見の方にすでに「留辺薬(ルベシベ)」駅が開通していたため、諸事情を鑑み、駅名・村名の新名称を皆で話し合ったそうです。「清川村」「川上村」「石上村」「上愛別村」「旭山村」など様々な村名候補があげられましたが、最終的には、石狩川の川上を意味する郷土ということで「上川村」が採択されました。(参考資料：『上川町史』)

昔も今も私たちを見守ってくれている大雪の山々。これから先も変わらずそこに在り続けてほしいです。



〔大雪展望台・エスポワールの鐘〕

1984年に上川公園に建設された展望台で、上川町の街並みと大雪の山々を一望できる町のシンボリック的存在。“エスポワール”とは、フランス語で「希望」という意味。

(展望台開館時間：9:00～16:30、Pあり
開放期間：5月上旬～10月下旬)

大雪山国立公園指定 90 周年記念特集①

大雪山国立公園指定の経緯 ～はじめ大雪山は候補地に入っていなかった！？～

みなさんは日本の国立公園が、いつ誕生したかご存知ですか？

答えは 1934(昭和 9)年 3 月 16 日。昭和 6 年に制定された国立公園法に基づいて瀬戸内海、雲仙、霧島の 3 公園が指定されたのが始まりです。その同じ年の 12 月 9 日、大雪山は阿寒・日光・中部山岳・阿蘇とともに第二次指定で国立公園となり、今年でちょうど 90 周年を迎えます。1936 年に指定された富士箱根・吉野熊野・大山・十和田をあわせた 12 ヶ所が、当時の公園行政を所管していた内務省衛生局が選んだ、我が国初となる国立公園の候補地でした。

1921(大正 10)年、内務省では阿寒湖、登別温泉、大沼公園、十和田湖、磐梯山、日光、富士山、立山、白馬山、上高地、大台原、伯耆大山、小豆島及屋島、阿蘇山、雲仙岳、霧島岳の 16 ヶ所(後に、上高地・白馬・立山の 3 カ所を日本アルプスという名称で一括)を候補地として選定し、順次調査に着手しましたが、この時はまだ、大雪山は候補に入っていませんでした。

この頃、第一次世界大戦による世界経済の混乱や関東大震災(1923 年)が起り、日本の経済は大打撃を受けました。その影響で、国立公園候補地の調査は 1925(大正 14)年で一時打ち切られ、再び国立公園運動の機運が高まったのが 1927(昭和 2)年。この年に国立公園協会が発足し、次第に国立公園設置への動きが本格化したことで、1931(昭和 6)年の国立公園法制定に至りました。

1931(昭和 6)年 6 月、当初から国立公園設置に大きく関わり、後に“国立公園の父”とも呼ばれる田村剛が北海道の候補地(大沼・洞爺湖・登別温泉・支笏湖・屈斜路湖・阿寒湖)を視察するため来道しましたが、この時も大雪山地域の調査はまったく予定されていませんでした。しかし、『日本の国立公園』という書籍によると、田村は「途上層雲峡地元からの要請があってこれを調査して、頗る有力な候補地であることを確かめ、さきに予定された 16 候補地についても、これを再検討される日のあることを予想した。」と述懐しています。(上川町史によれば、田村は層雲峡温泉から黒岳に登ったそうです。) もし、この好機を逃し、田村委員が大雪山のすばらしさを目の当たりにしていなかったら、大雪山が指定を受けるのはもっと後になっていたかもしれません。

また、1931(昭和 6)年 11 月に開催された第一回国立公園委員会では、16 候補地以外にも適格なものはないかという委員からの質問に対して、伊藤保健課長が、「大雪山地域が有力な候補地になる可能性があり、今後の調査を要する」と説明しています。そして、1932(昭和 7)年 10 月の第二回国立公園委員会で正式決定した全国 12 ヶ所の国立公園候補地の中に大雪山が追加で入りました。飛び入りで 1921(大正 10)年の 16 候補地以外で入ったのは、全国でただ一カ所、大雪山だけです。

国立公園法の「国立公園ノ選定ニ関スル方針」には、こう記されています。

第一、必要條件 我が国ノ風景ヲ代表スルニ足ル自然ノ大風景地タルコト
即チ国民的興味ヲ繋ギ得テ探勝者ニ対シテハ日常体験シ難キ感激ヲ与フルガ如キ傑出シタル大風景
ニシテ海外ニ対シテモ誇示スルニ足り世界ノ観光客ヲ誘致スルノ魅力ヲ有スルモノタルコト

大雪山が飛び入りで国立公園に選定された事実は、この条件を十二分に満たしていたことを物語っています。(参考資料：『日本の国立公園』監修 厚生省国立公園部(1951)、『第一回国立公園委員會議事録』(1931.11.24)、『上川町史第 1 巻』)

紅葉谷・花だより(1)

薄暗い林床の中で、かわいらしい、とても小さな白い花を咲かせるズダヤクシュ。漢字で書くと「喘息薬種」。ズダは信州の方言で喘息のこと。喘息に効く薬草であることからこの名がつけました。花の形が特徴的で、先の開いた鐘のよう。楚々として美しいです。糸状で飛び出しているのが花弁で、白く目立つのが萼片。立ち止まり、じっくり観察してみることをおすすめします。

(花の拡大)



花弁は 5 裂して花弁状
花弁



【ズダヤクシュ】
(ユキノシタ科)
6 月上旬～7 月上旬

層雲峡にエゾクロテン現る!!(5/11)



黙っていればかわいらしい見ためをしているエゾクロテンですが、狩りの最中はハンターの顔つきです。

層雲峡ビジターセンター (電話) 01658-9-4400

〒078-1701 北海道上川郡上川町字層雲峡 ウェブサイト <http://sounkyovc.net>